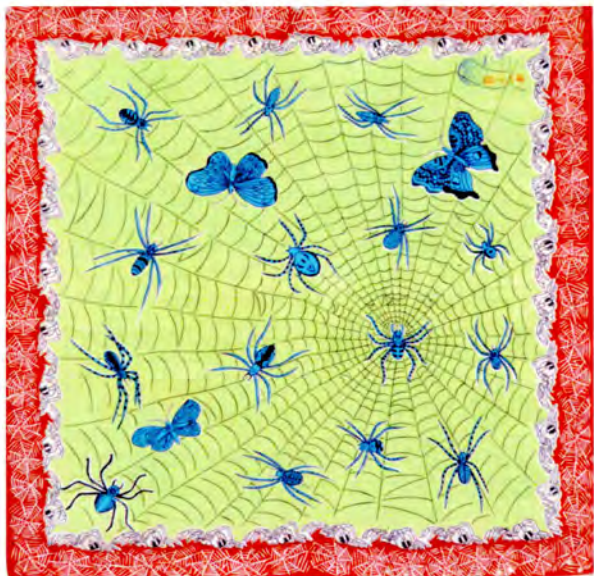


やばいじゃん！

YOKOHAMAのスカーフ

現代的感性考



●日常のポエティックス

意匠認定番号1951《くもの巣》 昭和32年にアフリカに輸出されたスカーフ
横浜市所蔵

2021.12. 5(日) — 2022. 1.16(日)

シルク博物館

シルクセンター2F

横浜市中区山下町1番地

やばいじゃん！

YOKOHAMAのスカーフ

現代的感性考

スカーフの展示らしくない突飛なタイトルだと思った方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

一般に「横浜スカーフ」は、薔薇や蘭などの優雅な花柄、また外国人居留地横浜の風情をモチーフにしたハイカラなものと多くの方々が認識されているかもしれません。しかし現在、横浜市が所蔵する昭和30年代から60年代までの輸出スカーフに出会えば、そうした固定イメージはたちまち覆されてしまいます。そこには世界各地の戦後の歴史があり、日々の暮らしを営む人間の姿があり、時代の証言者としての意匠価値に衝撃を受けるからです。その意表をつく魅力を今日的な言葉で表現するとしたら——。危うさを孕みながらも新奇性、革新性に満ちた「やばい」がぴったりではないかと思われました。感性に刺さる、心が揺り動かされる、そんな時思わず発してしまう言葉が「やばい！」です。いまや最高の褒め言葉といえるかもしれません。そして、横浜らしく「じゃん」。

本展示では過去のスカーフ意匠を現代的感性を表わす言葉で感じ取っていただくことを提案したいと思います。スカーフアーカイブのデザインリソースとしての可能性を探ることになるからです。

主催 シルク博物館
企画・監修 KGU横浜スカーフ研究プロジェクト
関東学院大学人間共生学部 教授 山崎 稔恵
関東学院大学経営学部 教授 岩崎 達也
研究推進課 間部 志保
図書館運営課 立石 文恵

横浜輸出スカーフアーカイブとは

戦後、スカーフの輸出振興に伴い模倣や盗用が頻出したことで海外より抗議が寄せられ、意匠権侵害の問題が深刻化しました。その防止策として導入されたのが意匠登録検査制度でした。1952（昭和27）年より施行され、申請の際には実物サンプルを提出することが義務づけられました。横浜市には過去に「日本輸出スカーフ等製造工業組合」から寄贈された約11万点のスカーフとそれらに係る意匠認定台帳45冊（データ件数約15万件）が所蔵されています。スカーフに捺された認定番号と台帳に残された詳細な記録を照合することができ、学術的にも貴重なアーカイブと言えます。またユニークな意匠の数々は、今後さまざまな場面でデザインのデータバンク的な役割を担うことが期待されます。このコースターにデザインしたスカーフはアーカイブで見ることができます。

《日常のポエティックス》 柄名/くもの巣/ 1957年4月15日

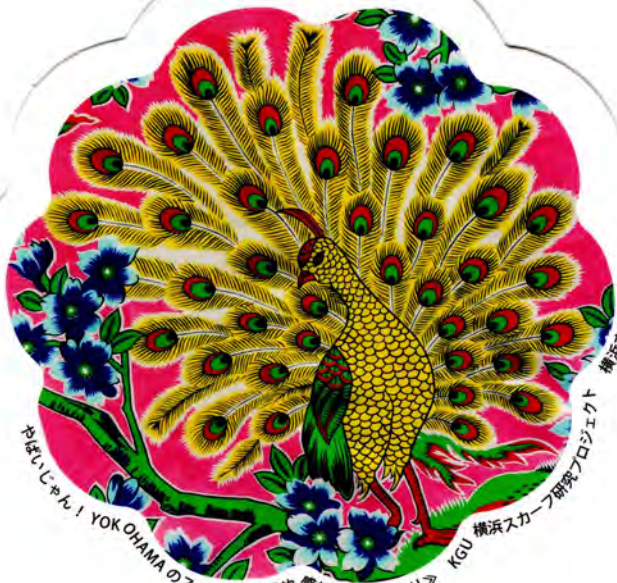
申請者/大和商事 輸出商社/太洋物産 島田貿易 仕向地/アフリカ

《マイペース・マイカラー》 柄名/カタツムリ 1957年5月2日

申請者/村井染色 輸出商社/ 帝人商事 仕向地/ 西阿

《気取り》 柄名/クジャク 1960年12月16日 申請者/熊谷貿易

輸出商社/ K.C. 仕向地/タンザール



おばいちゃん！ YOKOHAMA のスカーフ 現代的 感性考 《気取り》

KGU 横浜スカーフ研究プロジェクト 横浜市所蔵



本邦初出 7.19.74 横浜市のスカーフ

現代の感性を

《マイベース、マイカラー》

KGU 横浜スカーフ研究プロジェクト

横浜市内蔵

やばいじゃん！ YOKOHAMA のスカーフ 現代的感性考 <日常のポエティックス>



KGU 横浜スカーフ研究プロジェクト

横浜市所蔵